

第16回 定例評議員会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成19年5月26日（土）10：00～12：10
2. 場 所： 神奈川県社会福祉会館（横浜市神奈川区沢渡4の2）
3. 評議員出席状況： 評議員現在数： 50名
出席評議員数： 31名
書面表決数： 13名
欠席評議員数： 6名（出欠表添付）
4. 出席理事：（会長）河野 洋平（代理 関野敏樹）
（副会長）野地 澄雄、山田 隆、八尾 勉
（専務理事）片 忠夫
（常務理事）三塚 康雄、上田 英之、木村 徳善、菊地 富士夫、
（理事）徳本 進、藤田 浩介、荻野 恭宏、金子 理人、川田 光代、
国島 みどり、清水 忠、百海 廷、小池 光、森本 珠水、
平沢 幸一、斎藤 幸雄、平賀 淳夫、
欠席理事：（理事）吉野 大成、吉岡 去私
5. 出席監事 木村 信吉、内海 雄三
6. 出席顧問・参与（顧問）押川 泰夫、片岡 春夫、小林 幹夫、（参与）小島 祐嘉
7. 議長選出 神谷 明宏評議員（横浜スキー協会）を指名
8. 議事録署名人選出 越前谷 芳隆評議員（横浜スキー協会）、大澤 康之評議員（横浜スキー協会）
を選出
9. 書 記 金子 理人理事、山下 てるみ広報委員を指名
10. 配布資料
① 第16回評議員会資料（事前配布）
11. 議 事
1) 報告事項
（1）一般経過報告
①片 忠夫専務理事から、平成18年度の一般経過について報告がなされた。

2) 審議事項
（1）第1号議案
①平成19年度 執行方針（案）について
片 忠夫専務理事から、平成19年度 執行方針（案）について、評議員会資料の2ページの提案がされた。
②平成19年度 総務本部方針（案）について
上田 英之常務理事から、平成19年度 総務本部方針（案）について、評議員会資料の3ページの提案がされた。
③平成19年度 教育本部方針（案）について
木村 徳善常務理事から、平成19年度 教育本部方針（案）について、評議員会資料の4ページから7ページまでの提案がされた。
④平成19年度 競技本部方針（案）について
菊地 富士夫常務理事から、平成19年度 競技本部方針（案）について、評議員会資料の8ページから9ページまでの提案がされた。

（2）第2号議案
①平成19年度 予算（案）について

藤田 浩介理事から、平成19年度 予算(案)について、評議員会資料の10ページから15ページまでの提案がされた。

<一時休憩>

・質疑応答

- ① 松浦 哲也評議員(小田原スキー協会)から、i 今回より、評議会案内にて議案について書面にて票決を行うように記載されていたがその経緯について、ii ハンディキャップ事業は、執行方針(案)の中にあるように県連行事の中で重要な課題であると考えているが、予算の裏付けが見えない。車山行事Vで単独開催となるが、ボランティアの不足による出費増やハンディキャッパーに対して充実した行事対応について、iii 消費税に関して、以前よりあった問題ではないかという点、他の公益法人の納税状況、県連として予算組みを何故するのか、簡易課税の基準を県連が選択することができるか、簡易課税の税率についての質疑があり、

片 忠夫専務理事より、i 教育庁の指摘事項として寄付行為では書面票決が定められており、評議員会、理事会も案内の段階で票決を行えるようにした。さらに上田英之総務本部長より、事前に票決をしていただき、当日参加表明された場合は、書面は無効になるので、急な欠席を含めた対応と理解していただければとの答弁がされた。片忠夫専務理事より、ii 教育本部を中心に級別テストを実施し、行事の充実を図っている。また押川顧問をはじめとする、会員各位の賛助会費により、予算の充実を図っている旨の答弁があり、上田英之総務本部長より、予算関係の補足説明、また賛助会費についても単年度決算として処理し、理事会で申し送り事項として、本事業予算を増額することを決議している旨の答弁がされた。片忠夫専務理事より、iii 過去より税理士等から指摘を受けていた問題で、全日本スキー連盟、東京都スキー連盟や県体協などもすでに納税が行われており、県連も対応する状況にあるとの答弁がなされ、上田英之総務本部長より、簡易課税への適用は500万円以下の場合適用され、税理士から税率として2.5%が適用される旨の答弁があった。

松浦哲也評議員より、車山V行事はハンディキャッパーに対して一般スキーヤーと一緒に参加できる行事として計画されるように、また、簡易課税の適用金額の再確認と、納税時期について十分配慮されるよう要望がなされ、片専務理事は要望として受け止めたと答弁された。

- ② 越前谷 芳隆評議員(横浜スキー協会)から、i ハンディキャップ行事は、過去より一般スキーヤーと一緒に実施しており、車山・五竜行事では、研修会及びクリニックと併設行事して、指導員の方々も現地参加で、ボランティアとして援助して頂いていた。今回単独で実施した場合、予算上非常に難しくなるのではないかと、ii ハンディキャップ行事費用として、かながわ夢国体基金に県連行事と併設して行うことで申請しているが、単独開催では基金が下りない可能性もあることから十分検討するよう要望があり、

木村徳善教育本部長より、i 全日本スキー連盟より100名以上で研修会を開催するよう指示があり、車山行事Vを湯沢行事IIに統合したとの答弁がなされ、山田副会長から、全日本スキー連盟の立場として、「I Love Snow」キャンペーンの一環として、ハンディキャッパーに対してやさしいスキーを表明しており、県連として100人以下で執行することを理事会で決定されるのであれば、連盟に提案してゆきたいとの答弁がされた。木村徳善教育本部長より、現地ボランティアとして参加される指導者については研修会参加とみなすこと、また、上田英之総務本部長より予算については従来どおりであるが、ボランティアとして事前に参加いただく方をつのった場合、どの程度集められるかが課題となる旨答弁がされた。

片 忠夫専務理事より、ii ボランティア運営せざるを得ない状況であり、県連有資格者にも参加を呼びかけて研修会参加とみなすことの処置を講じたい。ゆめ国体基金は貴重なので、それらを含め、理事会で議論することの答弁がされた。

- ③ 北川 松男評議員(座間スキー協会)から、i 県総体のノルディックコース設定が野辺山会場に変更してから距離が短く、執行方針と矛盾してないか、ii 県総体の参加人数の制限があったが、最近の参加者減の状況から必要ないのではないかと、iii 県総体ノルディック競技がアルペン競技終了後に開催されているが、ジュリーメンバーをふやし、同時開催出来ないかとの質疑があり、菊地富士夫競技本部長より、i 参加選手のレベルを考慮し、専門委員会で検討していくこと、ii 昨年より主催が県体協と県連に変わったことから、大会のレベルを落とさないようにしながら検討していくこと、iii ジュリーメンバーを増やし、コースを伸ばすことも考慮して検討していきたいとの答弁がされた。

- ④ 高橋 傳評議員（川崎スキー協会）から、環境問題の取り組みに対する運動経過のまとめ方、役員活動のまとめ方について質疑があり、
片 忠夫専務理事より、環境問題を執行方針に取り入れ県連活動の中で、自身ができることから取り組み、競技中の禁煙、車両移動時の相乗り、スノーセメントの使用最小限化などの方向性を打ち出して何が出来るかを掴み、この成果を元に加盟団体、所属団体へお願いし、まとめていきたいとの答弁がされた。
- ⑤ 森 雅昭評議員（川崎スキー協会）から、i 国体予選会場は昨年同様「尾瀬戸倉」なのか、ii 国体予選会場設定の考え方、iii 県総体日程は開会式の2月29日からでよいかの質疑があり、
菊地 富士夫競技本部長より、i 昨年より日程の都合、「尾瀬戸倉」に変更した。今年度も尾瀬戸倉で開催予定です。ii 国体競技成績の低迷から、難易度の高いコース設定をとることにより、競技力向上を図れる会場を選択してきた。理事会でも3年間は、実施することを決議しており、地元とも契約を結び、運営に支障無い様取り組んでいく。iii 県総体日程については、ご指摘のとおり、2月29日からであるとの答弁がされた。
- ⑥ 越前谷 芳隆評議員（横浜スキー協会）から、i ジュニア行事の取り組みについて、各協会でき取り進むべきで、県連がまとめて実施することは如何なものか、ii 環境運動の一環として車両使用時の相乗りについて、旅費規程にもとづいた精算を行い、自助努力による経費削減も図れるのではないかと質疑があり、
上田 英之総務本部長より、i ジュニア行事については、加盟団体とかぶるつもりは無く、県連としては、横浜・厚木地区で教育委員会経由で協会と協調して実施しています。もしそのような事例があるならば、ご指摘賜りたい旨の答弁がなされ、片 忠夫専務理事から、ii 環境問題の一環として相乗りについて提案したが、経費削減問題とは別であることから、ご意見として受け止め、今後この点について、整理を進めていく旨の答弁がされた。
- ⑦ 鳥羽 洋一郎評議員（横浜スキー協会）から、参加費500円値上げの話が競技本部長からあったが、他には無いのかとの質疑があり、
木村 徳善教育本部長より、教育本部行事で神奈川県スキー技術選手権大会及び環富士山スキー技術選手権大会でそれぞれ1000円、南関東スノーボード選手権大会で2000円、スキー指導員養成講習会3日間コースで2000円、2日間コースで1000円のアップです。これは会員サービス向上の一環として取り組んでいる旨の答弁がされた。

(3) その他
特になし

以上を以って、本日の議事を終了し、議長解任後、野地副会長より閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成19年6月9日

議 長

印

議事録署名人

印

議事録署名人

印